

上田未来会議 #2【まとめ】

日 時 令和2年12月11日（金）19：00～21：00
 配信会場 まちなかキャンパスうえだ（Zoomによるオンライン配信）
 参加人数 15名（このほかスタッフ2名も参加）

【講演・オンラインワークショップ…120分】

講 師：山脇智志 氏（キャストリア（株））、谷川嘉浩 氏（京都市立芸術大学）

テーマ：学び、言葉をつむぐ～アフターコロナの生活と、新しい「学び」のあり方～

モバイルラーニングサービスを提供する「キャストリア（株）」代表取締役の山脇さんと、京都市立芸術大学で哲学や教育学を専門として特任講師を勤める谷川さんを講師に、技術革新によって世界的な社会情勢が大きく変化中、新しい生活における「学び」や「居場所」などをテーマに対話形式で語り合う場を設定した。



<講師（山脇さん）による講演：実践事例の紹介と質疑応答>

ケニアでのプログラミング教育の実践事例、小中学校に学習ツールを持ち込んで自立学習を目指す「ラーニングオートメーション」などの取組を紹介

Q：経営者として人件費を減らすなど効率化も必要だが、「人が生きる」考えはどうか？
 →便利さを否定はできない現代社会で、哲学者の皆さんの役割の一つとして「人が生きる」ことに意味を持たせることも重要と考える。

<講師（谷川さん）による講演：実践事例の紹介と質疑応答>

哲学者の考えや言葉を引用しながら、「哲学とは対話」であり、人（モノ）との対話により自分の想定にない新しいものが「創発」されることを解説

Q：「耳を傾けて聞く」・「寂しさを紛らす」事は難しいが、どのように実践されているか？
 →自分の言葉を発さず「他者の話を聞く」訓練をする。それは人じゃなく、例えばマンガを読む、コーヒーを味わうなど「孤独」の時間を持つことも大切である。

<相互の意見交換（講師による話題提起に対するコメントなど）>

- ・居場所（物理的、心の置き場）の定義→「場所・時間」の共有、心の拠り所など
- ・AIの先生の是非→知識の蓄積は有効、全てをAIとせず学習サポートまでが理想

総括（講師・ファシリテーターによる全体まとめ）

- ・信学会系列の「コードアカデミー校」では、プログラミング教育の学びなど、生きていくための技術が得られるような取組を実践しており、興味あれば参考にしてほしい。
- ・孤独の時間を使って「学ぶ」ことが大切で、現実から切り離された時間が居場所にもつながる。自分と「向き合う」余裕がある時には、周囲へ気を配る考えも必要である。